■第2回ビッグイシュー日韓フォーラム
～ホームレスの自立を支援する社会的企業
The 2nd Big Issue Japan –Korea Forum in Seoul

2012年8月28日（火）から30日（木）、世界中でホームレスの自立支援を展開するストリートペーパー・ビッグイシューを中心に、都市研究プラザの後援のもと、昨年12月に続く第2回目の日韓交流（シンポジウム及び親善試合・社会的企業に関する現地視察等）が開催された。

今回のフォーラムは日本国際交流基金の助成やソウル市雇用労働部・保健福祉部等の後援も得て、「貧困と社会的排除に立ち向かいホームレスの自立を支援するビッグイシューの挑戦」というテーマで、両国の研究者、支援スタッフ・販売者及び市民等、約30名の参加により、国際交流基金ソウル事務所大会議室にて開催された。

フォーラムでは、日韓のビッグイシュー活動に関するアクションリサーチの成果報告の他、ホームレス支援に関するノウハウ及び両国の若者を取り巻く厳しい経済社会事情に関する報告と、その解決に向けた社会的企業としての実践的な取り組みの紹介が行われた。今回は２回目であるため、参加者との交流をさらに深めながら、今後の持続的な研究交流の実践に向けて議論が行われた。

■全 泓奎（都市研究プラザ准教授）

第2回ビッグイシュー日韓フォーラム参加者

From August 28 to 30, 2012, the 2nd Big Issue Japan-Korea Forum was held at the Grand Auditorium of the Japan Foundation in Seoul, South Korea, under the theme of “The Big Issue Challenge: Supporting the Self-reliance of the Homeless and Standing Up Against Poverty an Social Exclusion.”

■URP・Information
国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」（第3回）ご案内

2012年12月1日（土）、都市研究プラザ・公益財団法人大阪国際交流センターは、国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」を開催します。

第３回目となる今回は、社会包摂ユニットが中心となり、「居住貧困を断ち切る：居住福祉政策と居住支援型社会的企業の実践」をテーマとした国際シンポジウムを開催します。ここでは、日韓の居住貧困の克服に向けた政策や居住支援サービス提供等の先進的な取り組みに注目し、事例の経験共有と居住貧困を断ち切るための居住福祉政策のあり方について議論をします。なお、前日にはエクスカーションを西成にて実施します。

国際シンポジウム

「居住貧困を断ち切る：居住福祉政策と居住支援型社会的企業の実践」

http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/2012/09/rt3.html

12月1日（土）13:00～18:15

第Ⅰ部　日韓における居住の現状と居住福祉政策の課題
全体司会：水内俊雄　都市研究プラザ副所長
金（キム） 秀顕（スヒョン）：世（セ） 宗（ジョン）大学副教授
平山洋介：神戸大学教授

第Ⅱ部　日韓における居住福祉実践と社会的企業
文（ムン） 永錄（ヨンロク）：社団法人居住福祉協会事務局長
佐藤由美：都市研究プラザ特任講師

第Ⅲ部　日本における住宅と福祉の複合的な実践
池田幹雄：元東京都職員
小林　真：NPO大東ネットワーク事業團代表
水内俊雄：都市研究プラザ副所長

質疑応答・討論
コーディネーター　全（ジョン） 泓奎（ホンギュ）：都市研究プラザ准教授

＜会場＞大阪市立大学高原記念館学友会ホール（杉本町キャンパス）
＜参加費＞無料
＜参加申込方法＞FAXまたはWebで所定の事項（ご氏名、連絡先、参加行事）を記載の上、11月27日までにお申し込みください。詳しくは下記をご覧ください。
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/
＜問合せ先＞　都市研究プラザ　Tel.06-6605-2071　Fax.06-6605-2069

■イベント・研究会の予定

各詳細は、都市研究プラザホームページでご覧ください。

11/17～18　第6回長屋路地アート
…豊崎プラザ　第1ユニット

11/19～23　船場博覧会2012・まちのコモンズ2012
船場を愉しむ5日間（エキシビション、セミナー、マーケット、ギャラリー、コンサート、まちなかパビリオンツアー等約60のスポットで開催）
…北船場一帯・船場アートカフェ他　第2ユニット

11/30～12/1　第3回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」
…大阪市立大学高原記念館、西成プラザ

12/14　AUC学会ワークショップ「AUCの展望とロンドン会議」
…大阪市立大学文化交流センター　第4ユニット

■URP特別研究員（若手）公募
募集要項（平成25年2月募集分）は、2013年1月に公表を予定しています。
情報⇒http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html
■URP－Newsletterの次号発行は2013年２月の予定です。

URP Osaka City University 大阪市立大学 | Urban Research Plaza 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が2006年4月に設立した全く新しいタイプの研究施設です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。2007-11年度グローバルCOE拠点「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」の実績をさらに発展させ、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/

558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138　tel.06-6605-2071
e-mail：office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長　佐々木雅幸　　副所長　水内俊雄　岡野浩　富田常雄
ユニット長　1U 佐々木雅幸　2U 嘉名光市　3U 水内俊雄　4U 岡野浩

大阪市立大学都市研究プラザ　ニューズレター　第17号
編集委員会　佐藤由美　野村侑香
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/

URP Osaka City University
Newsletter Issue 17, Nov. 2012
大阪市立大学 都市研究プラザ ニューズレター 第17号　2012年11月

震災復興に発する社会包摂系アートの社会実験
── こども熱帯音楽祭 in 大阪 ──
A social experiment using socially inclusive art to contribute to earthquake disaster reconstruction
── Tropical Music Festival for Children in Osaka ──

2012年8月31日（金）、都市研究プラザの主催により、大阪市内の小学校など4つのグループの子どもたちと、音楽家の大友良英氏、小島剛氏、野村誠氏および舞踊家の佐久間新氏による「こども熱帯音楽祭　in　大阪」が、大阪市立大学田中記念館ホールで開催された（助成：芸術文化振興基金財団、後援：在大阪インドネシア共和国総領事館）。

参加した小学生を主とするこどもたちは、大阪市立南住吉大空小学校11名、ohana遊びの学校21名、大阪市立豊崎東小学校12名、また西成区在住の大阪市立南津守小学校と今池こども家のこどもたちによる子どもオーケストラチーム35名の4チームである。当日は出演者を含み280名近くの参加者があり、大盛況のなか実験性のある充実した音楽祭になった。

この音楽祭は、4つのチームがワークショップを経て実施する合同の発表会という形で構成され、各チームが順に、創造的で躍動感あふれる音楽を奏で観客を魅了した。特筆すべきは、ほとんどのチームが、舞台、客席というボーダーを超えて、会場全体をも巻き込んでいったことであろうか。

コンサート終了後のシンポジウムでは、この音楽祭のモデルとなっている、ジョグジャカルタ（インドネシア）の「こども創造音楽祭」の主宰者であるDjohan教授（インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校）を招き、ジョグジャカルタでの取り組みを紹介いただいた。

このプロジェクトは、2011年3月の東日本大地震の後、ますます閉塞する日本の社会において、未来に向けてアートが果たし得る役割を模索し、実践を通して研究、その成果を社会のなかで循環させていくことをめざしたものである。今回、参加を依頼した大友良英氏は、震災後の原発事故によって悲惨な状態に陥った福島において、「プロジェクトFUKUSHIMA！」を立ち上げ、継続的に活動をしている音楽家でもある。

そもそも、ジョグジャカルタにて2009年からスタートした「こども創造音楽祭」は、2006年のジャワ島中部地震の後に立ち上がった「ガムランエイド」の活動が起点となっている。数年に及ぶ「支援」は、「協働」へと変化し、現地側のカウンターパートナーの一人であるDjohan教授（音楽心理学）が中心となり、「こども創造音楽祭」が始動した。義援金の残りを活用し、未来に向けた取り組みへと展開したのだ。ガムランエイドのメンバーであった中川眞（都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授）や、今回のワークショップ講師である佐久間新氏（舞踊家）は、初回から参加し、都市研究プラザも当初から共催者として参画している。そして、このガムランエイドの活動は、1995年の阪神・淡路大震災後に、マルセイユ（フランス）のアーティストたちが被災地のアーティストたちのためにスタートした活動「AKTE　KOBE（アクト・コウベ）」をモデルとしている。このとき、マルセイユでの義援イベントから始まり、相互の交流を展開し、両者の間で支援を超えたネットワークが形成されたように、今回も当時のメンバーが関わり、災害後のアートによる様々な取り組みが連鎖し、試行錯誤を重ねていくなかで、そのメソッドが蓄積され共有されていくというゆるやかなネットワークが構築されつつあるといえるだろう。

ジョグジャカルタでは、被害の大きかった低所得層が集まるエリアの小学校を主な対象として、音楽を学ぶ学生によるワークショップが行われ、年に一度の音楽祭が開催されている。インドネシアの伝統芸能や音楽を見直すと同時に、身の

子どもオーケストラ(今池こどもの家と大阪市立南津守小学校の子どもたち)＋大友良英（撮影：草本利枝）

大阪市立豊崎東小学校＋野村誠（撮影：草本利枝）

回りの素材で音楽を創造していくことを通して、子どもたちが、様々な課題を創造的に解決し、豊かな未来を切り開いてゆくための創造力を身に付けていくこと、そして次世代を担うコミュニティリーダーを育てていくことが目的だ。今年6月、ジョグジャカルタでは４回目の開催となったこの音楽祭に20校以上の小学校の参加があり、継続することで拡がり、定着している様子が伺える。

今回の大阪での取り組みにおいてジョグジャカルタと異なる点は、学生ではなくプロのアーティストがワークショップの指導にあたったということで、それぞれのアーティストの異なる創作手法により、４チーム各々の個性的な作品が生み出されることとなった。また、アーティスト自身が「教える」という立場ではなく、参加者である子どもたちの個性や創造性を引き出しながら、子どもたちと共に作品を生み出すという実験の場になっていたことは重要なポイントではないだろうか。創造のプロセスを共有するということである。

そして、ジョグジャカルタのコンセプトを引き継いでいる点は、既存の音楽を上手に演奏することが目的ではなく、どこにもない新しい音楽を自分たちで創造していくということである。ここでは、与えられたものを上手にこなすというのではなく、楽器を演奏するスキルがなくても、音楽を創造し、楽しみ、表現することが出来ると同時に自分で主体的に考え、創造するという力が求められる。何よりも重要なのは、子どもたちがここで経験する既存の枠組みを超えたクリエイティブな発想の転換が、日常生活においてもフィードバックされていくことである。

大阪では初めての取り組みとなった「こども熱帯音楽祭」は、今後もジョグジャカルタをはじめとする国内外の地域とのネットワークをひろげつつ、各地での実践から編み出された手法を共有していく場としても、継続していきたいと考えている。しかし、こういった採算性のとれない事業において、持続可能な体制を構築し、環境を整備していくことは、アーツマネジメントの大きな課題の一つであり、大学だけでなく、行政、民間との協働、また文化・芸術の分野だけでなく教育、福祉などの政策との連携も必要となってくるだろう。

■雨森 信（都市研究プラザ特任講師）

大阪市立南住吉大空小学校＋小島剛

Ohana遊びの学校＋佐久間新
（撮影：草本利枝）

子どもオーケストラ(今池こどもの家と大阪市立南津守小学校の子どもたち)＋大友良英
（撮影：草本利枝）

On Friday August 31, 2012, a “Tropical Music Festival for Children in Osaka” was held featuring a total of 80 children in 4 groups, some from elementary schools in Osaka City, the musicians Mr. Yoshihide Otomo, Mr. Takashi Kojima, and Mr. Makoto Nomura, and the dancer Mr. Shin Sakuma at Osaka City University’s Tanaka Memorial Hall. Modeled on the “Creative Music Festival for Children” that was first launched in 2009 after the Central Java earthquake of 2006, the goal of this project is to instill in children the creative abilities to solve all kinds of problems creatively and open up a bright future through creating, together with experimental musicians, original music that has never existed before. About 280 people participated on that day, and it was a festival rich in music of an experimental nature held in an exuberant atmosphere.

Urban Research Plaza Newsletter issue 17

■文化庁･文化芸術創造都市推進事業 ～創造都市政策セミナー～

The Creative Cities Promotion Project by the Agency for Cultural Affairs: The Seminar of Creative Cities Policy

2012年9月21日（金）・22日（土）、山形県鶴岡市のマリカ市民ホールで「創造都市政策セミナー」が開催された（主催：文化庁・NPO法人都市文化創造機構、共催：鶴岡市・鶴岡食文化創造都市推進協議会、協力：都市研究プラザ）。このセミナーは文化庁の文化芸術創造都市推進事業の一つとして位置づけられ、2009年度から毎年１回、これまでに大阪市、横浜市、浜松市で実施。4年目を迎えた今回は「震災復興と文化芸術」をテーマとし、北海道から沖縄まで17自治体の職員や、研究者、文化団体、まちづくり関係者など100人を超える人々が集まった。

21日のシンポジウムではまず、イタリアンレストラン「アル・ケッチァーノ」のオーナーシェフ・奥田政行氏が報告を行った。奥田氏は自身の故郷である山形県庄内地方の食材にこだわり、伝統野菜を復活させるなど、身近にある地域資源に光をあてて庄内の人々の誇りを取り戻す活動を、そして3.11直後から被災地の支援活動にも取り組んでいる。

次の報告は、被災地・三陸の岩手県大槌町教育委員会生涯学習課長の佐々木健氏。大槌湾に浮かぶ蓬莱島が「ひょっこりひょうたん島」のモデルであることや町内に吉里吉里地区があることにふれ、作家の故井上ひさし氏が遺したメッセージ、すなわち地方の自立は地域資源を資本にしていく取り組みから具現化されていくのではないか、と語った。

東北文化学園大学教授の志賀野桂一氏は、一般財団法人アーツエイド東北の代表理事も務め、東日本大震災で被災した芸術家や団体のサポート等を行っている。なぜかと言えば、「文化芸術による復興推進アプローチは人間性回復の生活を取り戻す試み」だからであり、さらに「東北は生活と一体化した郷土芸能の宝庫である。祭りや芸能の再興なくして復興はない」とも述べる。

挨拶する近藤文化庁長官

近藤誠一文化庁長官は3人の報告を聞いた感想として、「経済原則として一般的に言われている限界効用逓減の法則は文化芸術にはあてはまらず、むしろ逓増するのだということを再確認できた。だからこそ暮らしに根づいた文化芸術は人々の生きる力を引き出すのであり、復興には伝統芸能が必要なのだ」と話された。

その後、文化による地域振興に取り組んでいる株式会社出羽庄内地域デザインの代表取締役・小林好雄氏を交え、わらび座相談役の是永幹夫氏のモデレートによるディスカッションが行われ、東北から始まるこの国の再生、東北の自然観や精神性をベースにした復興のあり方、創造都市論の新しい地平の方向性等について意見が出た。

翌22日には創造都市入門セミナーとして、埼玉大学教授の後藤和子氏による「基礎理論講座」、都市研究プラザ所長の佐々木雅幸による「政策の評価指標講座」を実施し、創造都市という概念が登場した背景や政策展開の方法等について講義を行った。

なお、21日夜には自治体職員を中心とした会議も開かれ、来年1月に設立をめざしている「創造都市ネットワーク日本」の規約案等について話し合った。このネットワークは、2008年2月に大阪で開催した「創造都市ラウンドテーブル」（主催：都市研究プラザ・都市文化創造機構）に端を発するもので、団体設立は文化庁の支援を受けながら事業を継続してきた成果の一つである。設立を契機に、ネットワークのさらなる広がりとともに、創造都市論の政策展開の可能性を実証していくことが求められよう。

■川井田祥子（都市研究プラザ特任講師）

挨拶する榎本政規 鶴岡市長

On September 21 and 22, 2012, “The Seminar of Creative Cities Policy” was held in Tsuruoka City in Yamagata Prefecture (organized by the Agency for Cultural Affairs and the Creative City Consortium (NPO), with support by the Urban Research Plaza). This seminar has been held annually since 2009, and the theme for this 4th annual meeting was “Earthquake Recovery and Culture and the Arts.” More than 100 participants gathered, including researchers and staff from 17 local government administrations. As one result of this seminar and project, a ‘Creative City Network of Japan’ is scheduled to be established in January next year. There were calls for the need to further expand the network and to demonstrate the potential for policy development of creative city theory